

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310005	X-21-B-3-310005	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
国際研究ゼミナール3	臼井 陽一郎			【1－3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1－3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
ヨーロッパの政治と文化を学ぶ							
内容							
<p>(1) ヨーロッパを舞台に活動した人物をひとり取り上げ、その人生を通じた仕事を追いながら、その時代の社会のありようや変化をみつめていく。その人物は、政治・文学・絵画・彫刻・写真・音楽・サッカー・ラグビーなど、分野は問わない。参加学生は、共通の人物ひとりえらび、みなで調べ考えていくとともに、各自がそれぞれにひとりとりあげ、自分自身でその人生に迫っていく。その調べのプロセスを通じて、卒業論文で必要なりサーチの技法を習得してもらう。その技法については、教員側から適宜、アドバイスを与えていく。本年度、共通に取り上げる人物としては、サッカー元英首相を予定している。</p> <p>(2) 文章力を鍛えるために、毎回、400字課題を提出してもらう。論題は、正義について、善について、理想について、希望について、絶望について、不正について、暴力について、悪について、戦争について、自由について、など。</p> <p>(3) ヨーロッパの政治と文化に関わる映像資料を観て、各自それぞれにメッセージを読み取り、それを報告しあってもらう。</p> <p>(4) ヨーロッパの歴史を理解するための資料を読んで、中学生向けに授業するようにわかりやすく板書ノートにまとめ、実際に参加ゼミ生の前で授業をしよう。</p> <p>(5) 今年6回目となる10大学合同ゼミ合宿に参加する（今年は箱根・小田原開催）。その運営に積極的に携わってくれる学生を歓迎する。日程は9月8－9日を予定。参加予定大学は本学以外に、北海道大学・北海学園大学・立教大学・法政大学・聖学院大学・尚美学園大学・東海大学・愛知県立大・名古屋商科大学・天理大学・龍谷大学・立命館大学など。</p> <p>なおこのゼミでは毎回 4 時間相当の予習／復習が必要になる。</p>							
使用予定テキスト							
授業中に適宜指示する。							
ゼミの進め方							
学生の報告を中心に、適宜、教員側のショートレクチャーを組み入れていく。							
成績評価基準							
毎回のゼミでの活動（90%）・毎回の400字課題（10%）							
ゼミ選択上のアドバイス							
LINE グループをつくり、飲み会や小旅行、ゲームであそぶ、といったこともやっていますが、集団行動を画一的に強いていくということは絶対にしません。無理のない範囲で気軽に参加してください。							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施	
×						○	
その他							
どうしても自分でお金を払って買って自分のものにしたいと思えるような本に出会えるといいですね。 なお授業中の学生のワークおよび400字文章課題に関して、適宜、講評を加える。							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310005	X-21-B-3-310005	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
国際研究ゼミナール3	矢口 裕子			【1－3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1－3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
テキスト講読によるジェンダー／文学／文化批評							
内容							
文学研究の世界では、1980年代以降、「ジェンダー・階級・民族性」という新たな視点を導入することにより、それまで埋もれていたたり周縁的位置に追いやられていた作家・作品が発掘され、さらに、すでに正典（キャンノン）として評価が確立しているかに見えた作品を読み直す作業が盛んに行われるようになった。また、そうした新たな批評の道具を映画・音楽等ポピュラーカルチャーの解読に応用する試みも活発である。 このゼミでは、そうした批評的視点から文学、映画、音楽、文化一般や時代を読み解くこと、最終的にはその成果としての卒業論文をまとめることを目標とする。 テキストを日本語にするか英語にするか、両方を取り上げるかは、年度によって異なる。翻訳のゼミにすることもありうる。 毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらう。							
使用予定テキスト							
田嶋陽子『ヒロインはなぜ殺されるのか』講談社 舌津智之『どうにも止まらない歌謡曲』晶文社 大和田俊之『アメリカ音楽史』講談社 Harry M. Benshoff and Sean Griffin, Gender and American Film , Eihosha. Anais Nin, Linotte: The Diary of Anais Nin , Harcourt.							
ゼミの進め方							
レポーター制によりテキストの精読を行う。レポーターの仕事は、テキストの内容をまとめ、調べるべきことを（舐めるように）調べ、そのうえで自分の意見・疑問・論点を提示し、ゼミ内の議論を活性化させることである。むろんレポーター以外の学生もテキストを精読し、自分の意見を用意してゼミに臨むことが求められる。							
成績評価基準							
レポーターとしてのゼミへの貢献度、普段の発言等ゼミへ取り組む姿勢、随時課す少レポート、半期ごとに課す期末レポートの成果を総合的に判断する。							
ゼミ選択上のアドバイス							
読むこと、書くこと、考えることが好きな学生、様々な分野にアンテナを張り巡らせた、知的好奇心旺盛な学生を歓迎する。3年ゼミは2年間かけて卒論を完成させる重要なものなので、自分の興味、適性、志向に鑑みて熟慮の上選んでほしい。							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施	
×						○	
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310005	X-21-B-3-310005	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
				【1－3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1－3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
政治思想と現代社会 あるいは「自分の人生について考えることは他人の幸福について考えることになるのか」							
内容							
卒論指導では各学生がテーマを見つけてそれに取り組みます。しかしこのゼミナールではそれらのテーマに直接関連したことを全員で議論することはありません。各自のテーマについては「政治」と「思想」と「アメリカ」に関連したことであれば広く指導するつもりでいます。しかしはっきりいって、現代社会の事象でこの三つに関連しないものは存在しません。なので、およそみなさんが関心をもったことについては指導します。ゼミナールでは現代の政治思想家の論文をとりあげ、「ものを考えるということはどういうことか」について全員で深く議論したいと思います。それは人間らしく生きるということはどういうことかを問うことでもあります。すべての人間は阿呆のふりをしていてうちに本当の阿呆になってしまっています。しかしその危険性を少しでも低くするにはどうしたらいいのか。また、なぜここまで現代社会は味気ないのか。どんな理由でこうなってしまったのか。さらには、どうせ社会の歯車として生きていくのなら少しでも存在意義を自分で見出せる歯車になるにはどうしたらいいのか。そういう問題について考えたいと思います。 もし「今の社会はすばらしい」とか「自分は歯車じゃない」と思っている人がいたら、それは社会に関する理解が足りない、あるいはたんに頭が悪いということです。ゼミナールという学習には絶対的に不向きですから何か別の道を歩まれたら良いと思います。 ゼミナールの具体的な内容としては現代社会について同時代的に考えている人々の論文を読んでいきます。これまでの越智ゼミでは、マックス・ヴェーバー、ヴァルター・ベンヤミン、ハンナ・アレント、丸山眞男、ミッシェル・フーコーという5人の政治思想家に限定していましたが、思うところあって、今年度は範囲を広げて他の論者のものも読むことにしました。誰の論文を読むかはゼミ生と相談しながら決めます。しかし一回読んだだけで理解できるようなものを読むことは絶対にならないので、ゼミ前の熟読が必要になりますし、ゼミでの議論も複雑なものになると思います。自分の意見を自分から発言するような積極的な学生の参加を期待します。 こうしたゼミナールが各自の卒業論文の問いとどう結びつくのか心配する人もいかもしれませんが。しかしこれらの問いについて考えることは必ず論文を書くうえで役立つことです。もっと正確に言えば、このような問いを欠いた問題設定によって書かれた論文に価値はありません。価値のある論文を書いてもらいたいと思っています。 毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
たとえば、下記。具体的には学生と相談します。 ヴェーバー『職業としての学問』 岩波文庫 ヴェーバー『職業としての政治』 岩波文庫 ベンヤミン『複製技術時代の芸術』 晶文社 ベンヤミン『ドイツ悲劇の根源』 講談社文芸文庫 アレント『全体主義の起原』 みすず書房 アレント『暴力について』 みすず書房 丸山眞男『現代政治の思想と行動』 未来社 丸山眞男『日本の思想』 岩波新書 フーコー『知への意志 性の歴史』 新潮社 フーコー『監獄の誕生 監視と処罰』 新潮社							
ゼミの進め方							
テキストを全員で講読します。全体の進行を担当する「司会」、テキスト内容の要旨を報告する「レポーター」、その内容を批判する「コメンター」という3者を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのふたつの役割を順番に担当します。各テキストの読了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。							
成績評価基準							
出席を重視します。各セメスター2回までは欠席しても単位を出します。3回以上欠席すると単位は出ません。欠席の理由は問いません。バイトでも風邪でも、欠席は欠席です。							
ゼミ選択上のアドバイス							
自分をだまさないことです。大学生活を言い訳の多い4年間にしてしまうと、それは癖になります。その後の人生でも同じ状況が続く危険性は高いでしょう。ですから本当は遊びたいのにきついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そしてこのゼミはきついゼミです。そこをところをよくよく考えてください。勉強したい人にとっては意味のあるゼミにしたいと考えています。							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施	
×						○	
その他							
合宿は夏期休業中に3・4年合同でおこないます。県内を予定しています。							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

ゼミ選択上のアドバイス

本ゼミではフランスや中東地域研究を中心に行うが、これに限らず、ヨーロッパや日本における問題を個別研究として取り上げてもよい。ただし担当教員のカバーできる歴史学や国際社会学等の分野のテーマであることが望ましい。ゼミ(演習)は、教員からの一方的な指導によって進めるものではなく、ゼミ学生がその運営に積極的に参加して作り上げていく共同研究グループであるので、みんなと一緒にやっていくのだという気構えを持ってこのゼミに入ってほしい。今年はどのようなメンバーが集まるのか楽しみである。

実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表 等)の実施
×		×
その他		

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310005	X-21-B-3-310005	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール3	鈴木 佑也			【1－3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1－3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
ロシア・ソ連地域研究、アート、建築、都市計画、都市文化、芸術政策、全体主義芸術							
内容							
<p>国家や政府、または「上からの指示」に従って生じた文化現象は、自由意志または自然発生によって生じた文化現象と比べた場合、価値のあるものなのか。無価値または価値が低いとするのであれば、その文化現象に対する評価基準は何であるか。</p> <p>一方で高い価値が与えられるのであれば、単に国家や政府の方針、政治や経済をめぐる状況だけで評価を与えてよいものなのか。こうしたことをこのゼミでは考察し、議論していく。</p> <p>ゼミでは自らが関心のある文化現象を研究テーマとして掲げ、そのテーマや関連事象を分析し、学術論文を完成させることが目的となる。レポートや論文作成指導はもちろんだが、テーマとする文化現象をどのような観点から論じるか、また自らのテーマを論理的かつ説得性を持って他人に向けてどのように説明するかという指導も積極的に行う。分析や調査の際に、ロシア語および英語の学術論文や文献、資料などを読むことがこのゼミでは求められる。講師の研究領域はロシア・ソ連芸術史および建築史であり、特に1930-50年代のいわゆる「全体主義」政治体制での芸術および建築が専門である。そのため、このゼミで扱う対象となるのは以下の通りである：</p> <p>地域：ロシア・ソ連地域またはヨーロッパの旧社会主義圏</p> <p>分野：アート、建築、都市文化、都市計画、芸術政策、表象文化</p> <p>時代：20世紀から21世紀</p> <p>ただし、上記の対象と近いものに関心があれば個別に相談してもらいたい。</p> <p>流れとしては3年次前期には論文の書き方や資料の集め方などを学習し、このゼミの共通テーマとなる文献（「使用予定テキスト」参照）を講読する。3年次後期ではそれぞれの研究テーマを決定し、そのテーマに関する参考文献を各自で購読し、問題点や関心あるテーマに対する自らの問題意識やそれを取り巻く状況を報告または発表し、議論する。その中で自らのテーマを絞り込む。また可能であれば、論文を書くための大まかな方針を決める。4年次前期では取り組むテーマを決定し、参考関連書籍及び先行研究（最低でも関連書籍は5冊）を読みつつ、取り組むテーマの基礎知識を深め、資料や文献収集を行い、論文の構成をまとめながら論文執筆に備える。4年次後期は論文執筆が中心となる。原稿添削や様式のチェックなども行う関係から12月までには初稿を完成させておくことが望ましい。</p> <p>毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。</p>							
使用予定テキスト							
<p>参加者に応じて変更する場合があるが、現時点では以下の通り。初回のオリエンテーションで参加者各自の興味あるテーマを聞きながらその年に購読するテキストを決定したい。</p> <p>1. ゴロムシュトク（貝澤哉訳）『全体主義芸術』水声社、2007年（共通テーマ用テキスト）</p> <p>戸田山和久『新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK出版、2012（論文作成用テキスト）</p>							
ゼミの進め方							
<p>講師によるレクチャー（論文の書き方、ゼミ共通テーマに関する講義）とゼミ参加者によるゼミで与えられたテーマの報告と発表、輪読から構成される。報告などの際は参加者が司会、報告、報告に対するコメントをその都度分担し、参加者の自主性が求められる。</p>							
成績評価基準							
<p>ゼミは通常の授業と異なり、一種のチームを組んで自らの仕事をやり遂げることが重要となる。そのため、ゼミへの貢献と自らの研究テーマに対する積極的な取り組み、そして課題となるレポート及び論文への完成度が評価対象となり、それらを総合的に評価する。欠席は原則として認めない。</p>							
ゼミ選択上のアドバイス							
<p>日常生活での些細なものに対して「なぜ」と思ったり「面白い」と感じるのであれば、それは既に研究への扉が開かれているのである。そうした興味や関心を失わず、それらの関連事象への知的アンテナを張り巡らせることができるのであれば、このゼミを選択していただきたい。</p>							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施	
×						○	
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310005	X-21-B-3-310005	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
国際研究ゼミナール3	山田 裕史			【1－3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1－3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
国際協力研究							
内容							
国際協力について学ばせ米です。							
<p>国際協力は、何のために、誰が、どのように行うものなのでしょうか。また、グローバル化が進んだ世界に生きる市民として、私たち一人ひとり、日常生活のなかでどのように国際協力を実践できるのでしょうか。このゼミでは、国際協力に関する文献やドキュメンタリー、ワークショップを通じて、これらの問いについて考え、議論します。</p> <p>今年度は、とくに「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」について基礎から学びます。SDGs とは、貧困や気候変動、人種やジェンダーに起因する差別などの地球規模の問題・課題を、国際社会が協力して 2030 年までに解決しようとするものです。SDGs は、よりよい未来を目指すための世界共通の 17 の目標で構成されています。このゼミでは、単に SDGs についての知識を身に付けるだけでなく、実際に一人ひとりが自分にできること、できそうなことから SDGs に取り組むことを目指します。</p> <p>また、このゼミでは、卒業論文の執筆に不可欠な、学びの技法をしっかりと身に付けます。具体的には、研究テーマの決め方、図書館での文献・資料など情報の探し方、プレゼンテーションの仕方、レポートの書き方などを学びます。学期末には、各自テーマを決め、ゼミ発表とレポート執筆を行います。このゼミでしっかりと学べば、卒業論文の書き方がわからない、というようなことにはならないはずです。</p> <p>なお、希望者がいれば、カンボジアまたはベトナムをフィールドに国際協力の現場を訪問する、スタディ・ツアーの実施も検討します。</p> <p>毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。</p>							
使用予定テキスト							
<p>以下の 3 冊の講読を予定していますが、履修者と相談のうえ、履修者の研究分野と関心にもとづきテキストを選定します。また、各自の研究課題に応じたテキストを紹介します。</p> <p>高柳彰夫・大橋正明編『SDGs を学ぶ』法律文化社、2018 年</p> <p>デイビッド・ヒューム『貧しい人を助ける理由』日本評論社、2017 年</p> <p>西あい・湯本浩之編著『グローバル時代の「開発」を考える』明石書店、2017 年</p> <p>また、以下のテキストを用いて、卒業論文執筆に必要な学術的な技法を学びます。</p> <p>川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術—プロの学術論文から卒論まで』勁草書房、2010 年</p>							
ゼミの進め方							
成績評価基準							
(1) 出席、(2) グループ・ワークやグループ・ディスカッションへの貢献度、(3) ゼミ発表、(4) 期末レポート、をもとに総合的に評価します。グループ発表に対するフィードバックとして、評価シートにもとづく講評を行います。							
ゼミ選択上のアドバイス							
<p>国際協力に関する専門的なテキストも講読するため、3 年次までに後期開講科目の「国際協力論」の単位を取得済みであるか取得見込みであることが望ましい。</p> <p>学びと活動の双方を重視する積極的な学生、「学術論文の書き方もしっかり身に付けたい」という学生の履修を歓迎します。</p> <p>本学には、先進国と途上国の食の不均衡の問題に取り組む TFT NUIS や、フェアトレード推進団体 NUIS-FT などの国際協力団体があり、各学年の山田ゼミの学生たちが国際協力を実践しています。また、学外でも、毎年 5 月の万代アースフェスタに出展したり、新潟の国際協力 NGO が一堂に会する、秋の国際協カイベントの企画や運営も行ったりしています。ぜひ一緒に活動しましょう。</p>							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施	
○	国際協力 NGO でプロジェクトに従事した経験を授業内容に反映する。					○	
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310005	X-21-B-3-310005	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
国際研究ゼミナール3	佐々木 寛			【1－3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1－3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
			【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×	
ゼミテーマ・タイトル							
平和のための地球政治学——新しい＜文明＞を求めて							
内容							
<p>当ゼミでは、危険や問題がグローバルに展開する現代で、人間がすこしでもよりよく生きぬいていくための方策をいっしょに考えてみようと思います。そのためにはまず、現代の危機や問題の本当の姿をしっかりと知的につかまなければなりません。身近な問題がもつ世界的な意味をおののが理解すること。これが第一のねらいです。第二に、このような問題を考えるにあたって、なぜ既存の知的な枠組み＝専門分化した社会科学だけではダメなのか、いかにこれまでの「勉強」が、人間がいきいき生きていくための「学問」をダメにしてきたのか、について考えてみようと思います。その意味で、新しい学問運動としての「平和学」の可能性や新しい大学のあり方などについても議論できればと思います。そして最後に、広い世間でさまざまな展開する新しい試みや活動を見る中で、現代でよりよく生きてゆくための新たな方策、新しい生き方や＜文明＞のあり方をともに探求できればと思います。さまざまな市民活動やNGOで活躍する人たちをゼミに招いたり、ゼミ学生自身が自分たちの力でNGOを設立・運営したり、いろいろなことに挑戦しようと思います。</p> <p>最終的に各自ゼミ論文（3年次）、および卒業論文（4年次）の作成を目指すため、多種多様なテキストを読みこんでゆくだけでなく、さらに必要に応じてワークショップ、調査旅行やフィールド・ワークも行います。また、映画をはじめとする映像資料もできるだけ多く活用する予定です。なお、佐々木ゼミでは毎年、海外に平和研修旅行に訪れるのが慣例になっています。各地の歴史資料館や戦争/平和記念館（ドイツでは「アウシュヴィッツ」、韓国では「ナヌムの家」）などを訪れ、身体全体で世界の問題を感じ、思考することを目指します。</p> <p>当ゼミでは広い意味での暴力や平和に関する問題を扱いたいと思いますが、細かいことは、参加学生の自由意思にゆだねます。扱うテキストに関しては以下に一例として挙げたものを参考にしてください。</p> <p>毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。</p>							
使用予定テキスト							
◎H. アレント『人間の条件』 筑摩書房 ◎A. ギデンズ『近代とはいかなる時代か？』 而立書房 ◎U. ベック『危険社会』 法政大学出版局 ◎A. メルッチ『現代に生きる遊牧民』 岩波書店 ◎E. サイド『知識人とはなにか』 平凡社 ◎P. ブルデュー『メディア批判』 藤原書店 ◎日本平和学会編『「3・11」後の平和学』早稲田大学出版部 など。 ――他に必要に応じて英語文献も読みます。							
ゼミの進め方							
ゼミの進め方や運営方法に関しては、基本的に参加者と相談して決めます。ただ、テキストを読む場合は、報告者をたてて報告をしてもらい、それを討論者が整理・コメントするという方法をとろうと思います。その後は自由討論。司会も学生です。だから教員は必要最小限のことしか話しません。参加学生がゼミをつくりあげます。							
成績評価基準							
ゼミへの参加態度や貢献度 ＋ レポートの出来。							
ゼミ選択上のアドバイス							
能力や知識よりも、ゼミというひとつの社会を自分の力で楽しくつくっていかうとする気概をもった学生、また、大学生活を締めくくる上で悔いのない卒業論文を書き上げたいと思っている諸君を歓迎します。							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施	
×						○	
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310005	X-21-B-3-310005	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
国際研究ゼミナール3	澤口 晋一			【1－3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1－3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
自分の脚を使って、観て、考えるゼミ。							
内容							
指導分野と範囲 私が3年ゼミ～卒業論文として指導する分野は、地理学（地球科学を含めた自然地理学全般と人文地理学の特定分野）および地球・地域環境問題、資源・エネルギーに関する分野です（詳しくは以下を参照のこと）。 ・地理学分野 自然地理学：地形学（高山・山岳、段丘、変動（活断層）地形、沖積平野等） 第四紀学（古環境変動） 気候学（小気候・微気候、気候景観、ヒートアイランド等） 地生態学・景観生態学（植生、自然景観保全、ビオトープ） 人文地理学：土地利用（景観変遷）、食糧問題、地域研究、観光地理学、地誌学 ・地球環境問題分野：地球温暖化問題、酸性雨、砂漠化、生物多様性 等 ・地域環境問題分野：地域環境保全、ゴミ問題、森林保全 等 ・資源・エネルギー分野：資源枯渇、自然エネルギー、原子力発電に関する問題（と核問題）等 昨年度は、夏休みを利用して全員で佐渡島に4泊5日のゼミ実習を実施しました。実習では、観光、農業、芸能、地形の4つの班に分かれて、前3項目については聴き取り調査を主体に、地形班は地形と土地利用との関係に主眼を置いて調査を行いました。この結果は報告書として印刷し、冊子としてまとめられました。今年度もこうした調査を行います。 なお、毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
相談のうえ決めます。							
ゼミの進め方							
内容欄に述べた分野に関する共通テキストの講読と夏休み実習のテーマと内容にかかわるテキストあるいは論文の講読。							
成績評価基準							
ゼミへの取り組み姿勢等総合的に評価。							
ゼミ選択上のアドバイス							
このゼミでは、卒論の作成を見据えて、実際にフィールドに出かけて自分の脚と口と眼と耳と頭脳を使って調査して得た資料やデータの分析と（客観的な）解釈に基づいて考察し、一定の結論を導く、というプロセスを最重要視します。したがって、卒論作成を机上で済ませようとする人には向きません。また、内容の欄で提示した以外の分野については、責任をもって指導することはできませんので、そのような人はほかのゼミを選んでください。							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施	
×						○	
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310005	X-21-B-3-310005	2	前期	【１・２年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
				【３年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	４年
授業科目	担当教員			【３年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	４年
国際研究ゼミナール３	小林 伊織			【１－３年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【１－３年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【４年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【４年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
Peter Seminars on World Englishes for juniors/seniors (In preparation for writing an undergraduate thesis on World Englishes, English as a Lingua Franca (ELF), and sociolinguistics)							
内容							
There are more non-native speakers of English in the world today than there are native speakers. Asia is the region with the largest number of English speakers in the world. This means that the learner in Japan is more likely to use English with other non-native speakers, particularly those from Asia, than with native speakers. There is no single standard variety of English in the world. The spread of English around the world meant that many different varieties of English developed in various locations. It did not mean that British English or American English was transplanted in different locations in its original form. English is an Asian language. Japan is a part of Asia; English is also a Japanese language. When a Chinese, a Japanese, a Korean and a Russian talk to each other in English, each one speaks his/her own variety of English. Here, what is considered to be “correct” or “incorrect” in American English is irrelevant as long as they can communicate successfully. The learner from Niigata should be able to use English as his/her own tool to express the cultures and thoughts of Niigata to people in Asia and all over the world. In the Peter Seminar, we first look at the frameworks and key concepts of World Englishes. Then we explore selected varieties of world Englishes, including Philippine English, Singapore English, Indian English and West African English. Finally, we consider the implications of the emergence of new Englishes for English language teaching and learning. The seminar requires 4 hours of self-study per session. This time should be spent doing pre-seminar reading as well as presentation and essay preparations.							
使用予定テキスト							
Honna, N., Takeshita Y. & D’ Angelo, J. (2012). Understanding English across Cultures. Tokyo: Kinseido. Honna, N. & Takeshita, Y. (2009). Understanding Asia. Tokyo: Cengage. 本名信行 (2006) 英語はアジアを結ぶ 玉川大学出版部 Jenkins, J. (2015). Global Englishes: A resource book for students. Oxon: Routledge. Kirkpatrick, A. (2007). World Englishes: Implications for international communication and English language teaching. Cambridge: Cambridge University Press.							
ゼミの進め方							
1. Pre-class reading 2. Short introductory lecture 3. Small group discussion 4. Student presentation							
成績評価基準							
20% Attendance 20% Participation 20% Presentation 40% Essay Before, during and after the semester, you will receive feedback about your performance in the seminar through oral and written methods.							
ゼミ選択上のアドバイス							
You should join the Peter Seminars if you plan to write an undergraduate thesis in English about topics related to World Englishes, English as a Lingua Franca (ELF) and sociolinguistics.							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施	
×						○	
その他							
Other details of the seminars will be announced in the first meeting.							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310005	X-21-B-3-310005	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
				【1ー3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1ー3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
国際研究ゼミナール3	アレクサンドル ブ ラーソル			【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
ロシア社会の歴史							
内容							
このゼミはロシア社会史の基本知識を得ることを目的とする。ロシア国家の起源から現代までのロシア史を探りながら、その文化と世界観等がどう形成してきたかと突き詰めるのが主な課題である。それと同時にゼミ学生の発言力がつくようにゼミ中の論争をあくまでも励ましたいと思う。そのために全員は毎回資料の読んだ部分をプリントにまとめてみんなに配付しなければならない。よくわからなかったまたは疑問に思ったところについては、ゼミの相手に答えてもらうことと他人の疑問に答えるのは義務づけられている。							
毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
デヴィッド・ヴォンズ著 ロシア皇帝歴代誌 創元社 2001 和田春樹著 ロシア史 山川出版 2002							
ゼミの進め方							
ゼミ生に発表してもらって、それぞれの発表を巡って意見交換やディッスカッションを計らう。ゼミ生の人数によって、発表は毎回一週間おきに行われる。							
成績評価基準							
出席率、授業の参加、学期末レポートによって評価をする。							
ゼミ選択上のアドバイス							
発表準備の際、参考文献に難解のところがあれば、別の参考書を利用して明確にすること。							
実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施	
○	民間会社での通訳・翻訳・論文査読の経験を生かす					○	
その他							
研究の目的は異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会なる多文化状況にあってポジティブに協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけることである。フィッドバックとして特に優秀な答案を公表し、全般的な講評を行う。							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310005	X-21-B-3-310005	2	前期	【１・２年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	３年
				【３年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	３年
授業科目	担当教員			【３年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	３年
国際研究ゼミナール３	藤本 直生			【１－３年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【１－３年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【４年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【４年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
英語による社会言語学 Sociolinguistics in English							
内容							
<p>「ことばを話す」ことは、私たちが生活する上でとても大切な能力です。私たちは母語である日本語を無意識に話しているように思いますが、場所や状況に合わせて適切に使っています。また、ことばは生きていて、絶えず変化しています。社会言語学とは、このようなことばの変化に焦点を当てた学問です。本ゼミでは、次の１０の観点から社会言語学の基礎を学びます。また、ハンドアウトは英語で書かれたものを使って、英語で授業を進める予定ですが、場合によっては英語と日本語のバイリンガルで行うこともあります。</p> <p>1. Gender 男女によることばの差 2. Age 年齢差によることばの違い 3. Ethnicity 人種・民族による言語差 4. Social class and regional differences 社会階級と地域による言語の違い 5. Language and culture 言語と文化 6. Forms of address 呼びかけ表現 7. Politeness ことばによる丁寧表現 8. Image and association イメージと連想 9. Speech acts and discourse スピーチアクトとディスコース 10. Nonverbal language 非言語伝達</p> <p>なお、英文エッセイを書くための基礎を養うために、Extensive Reading (略して ER、多読) も並行して行います。ER では図書館にある Graded Readersの中から自分の興味ある内容の本を選んで、昼休みや放課後等の時間を使って各自のペースで読み進めます。</p> <p>毎回の予習・復習に、合わせて４時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。</p> <p>15回の授業のうち１回を課題に代替します。詳細は授業中にお知らせします。</p>							
使用予定テキスト							
<p>プリント教材を使用するため、それを綴じるためのファイルを各自で購入すること</p> <p>『An Invitation to Sociolinguistics 社会言語学への招待ー社会・文化・コミュニケーション』</p> <p>ミネルヴァ書房 (2,500 円＋税)</p> <p>『めざせ！100 万語 読書記録手帳』SSS 英語学習法研究会著、コスモピア株式会社 (600 円＋税)</p>							
ゼミの進め方							
英語で書かれたハンドアウトをもとに、ペアやグループでディスカッションしながら進めます。							
成績評価基準							
授業態度・授業への参加 ３０％、ER ２０％、英文エッセイ ４０％、ファイルマネージメント １０％							
ゼミ選択上のアドバイス							
ことばやさまざまな言語に関心があり、４年生になった時に英語で社会言語学および談話分析に関する卒業論文を書き上げたいと考えている学生の皆さんは、ぜひ藤本ゼミへ。							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施	
○	公立中学校での勤務経験を有する教員が、実践的な英語教育を行う。					○	
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310005	X-21-B-3-310005	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
国際研究ゼミナール3	吉澤 文寿			【1－3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1－3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
朝鮮の歴史を学び、「日本」を問うー排外主義または植民地主義の克服のために							
内容							
3年前期ゼミでは朝鮮または日本の近世以降の歴史を問い直す。とくに日本の侵略戦争と植民地支配または植民地主義について学ぶ。沖縄、朝鮮、マイノリティなどに視座を求めた学習を通して、自らの思想、認識を点検するとともに、差別意識や排外主義の克服への道筋を追究する。3年後期ゼミから、学生がそれぞれ選んだテーマについて、先行研究を整理し、資料収集及び調査をした結果をもとに、卒業論文を書き上げるための活動に取り組む。							

上記の目標に即して、このゼミでは以下の通りの計画で進める。							
3年次前期：テキスト学習…近年発表された書籍または論文を輪読したり、それをもとに討論したりする。							
詳細は「使用予定テキスト」を参照されたい。							
3年次後期：個人研究（1）ー先行研究の整理…学生それぞれが選んだテーマに即した文献等を収集し、その研究状況を整理する。							
4年次前期：個人研究（2）ー調査の実施及びその結果の整理…自分で集めた一次資料やアンケートなどで収集した情報を整理する。							
4年次後期：個人研究（3）ー卒業論文の執筆…文献や資料などを補完しつつ、論文を執筆し、完成させる。							

なお、私の専門は朝鮮現代史、日朝関係史である。社会学ではなく、歴史学を専門としている。植民地支配をめぐる日本と朝鮮（この場合の朝鮮とは、現在の大韓民国および朝鮮民主主義人民共和国に由来する民族などの総称である）について研究してきた。また、米国での在外研究を通して、米国を視野に入れた比較研究などにも関心がある。個人研究は各人の関心をもとにして設定してもよいが、上記のことを一応留意してほしい。							
使用予定テキスト							
3年次前期のゼミでは、おおまかにいくつかのプランを考えている。ただし、実際にどのように学習するかは初回のゼミで話し合いたい。							
（1）朝鮮史を学び直す…朝鮮王朝期から朝鮮の歴史をしっかり学ぶ。							
姜在彦『歴史物語 朝鮮半島』朝日新聞社、2006年							
朝鮮史研究会編『朝鮮の歴史 新版』三省堂、1995年							
（2）「徴用工」問題から日朝関係を考える…2018年10月の韓国大法院判決からあふれる韓国バッシング現象を批判する視座を身につける。事実を知り、歴史的観点から問題を考察する。							
山本晴太ほか『徴用工裁判と日韓請求権協定』現代人文社、2019年							
戸塚悦朗『「徴用工問題」とは何か？ 韓国大法院判決が問うもの』明石書店、2019年							
（3）日朝関係を問い直す…朝鮮民主主義人民共和国と日本との関係（日朝関係）において、「日本人拉致」問題は重要課題の一つであるが、植民地支配責任も未解決であり、国交正常化も実現していない現状を踏まえると、日朝関係を総合的に学ぶことによってのみ、現状を理解し、今後の方策を見いだすことができる。							
江口昌樹『拉致問題を越えて 平和的解決への提言 拉致・人権・国際社会』社会評論社、2017年							
林典子『フォト・ドキュメンタリー 朝鮮に渡った「日本人妻」ー60年の記憶』岩波書店（新書）、2019年							
ゼミの進め方							
ある程度的人数であれば、報告者と討論者を設定するが、人数が少なければ報告者のみを設定し、議論を通してテキストの理解を深める。私からも適宜テキストの内容がわかるような資料を配布するなど、理解を助ける補助は行うつもりである。							
また、長期休暇中に、他大学のゼミやワークショップなどで外部の学生と交流したり、フィールドワークを行う機会を持ちたい。							
成績評価基準							
出席とレポートで評価する。							
欠席をしないこと。とくに無断欠席は厳禁である。							
レポートは2000字程度で、3年次前期に学んだことを整理して作成する。							
ゼミ選択上のアドバイス							
志望理由書には残りの2年間で自分が何を学びたいのか、できる限りでよいので、よく考えて書いてほしい。							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施	
×						○	
その他							
予習復習に4時間。							
なお、ゼミ1回分を課題レポートに代替する。詳細は授業中に指示する。							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310005	X-21-B-3-310005	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
国際研究ゼミナール3	申 銀珠			【1－3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1－3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
小説・エッセイ・映画で学ぶ韓国・朝鮮と日本 日本と韓国の不幸な歴史とどう向き合うべきか。国家と個人の関係を踏まえて考えよう							
内容							
日韓比較文化論の一環として、＜在日文学＞についていっしょに勉強したいと思う。＜在日文学＞というと、皆さんは「堅い」「地味」という印象をもっているかも知れないが、日本人・日本社会の他者として生きている＜在日＞の人々によって書かれた作品世界は、まさに日本社会の本質を違う角度から映し出す鏡のようなものといえよう。 日本に帰化した人を含め、朝鮮・韓国人作家が日本語による文学活動を通して日本の政治的文化的体制に深く関係付けられていたのは、戦前の日本の植民地政策が日本語政策とともにあったことと無関係ではない。日本の植民地政策の結果として、在日の作家は、戦後も日本社会において民族や国家や言語の問題を問いながら自らのアイデンティティを探っていかざるを得なかった。同一性共同体といわれる日本社会において排除される存在として認識されていた＜在日＞の問題に、作品を通して近づいていく。そして祖国としての＜朝鮮＞とは＜在日＞の人々にとってどんなものだったのか、＜韓国＞と＜北朝鮮＞の現実を彼らはどのように受け止め、あるいは反目し合ってきたのかを、映画、小説、エッセイ、評論などを通して探りたい。 毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
・李良枝『由熙 ナビ・タリョン』（講談社文芸文庫） ・柳美里『家族シネマ』（講談社） ・金城一紀『GO』（講談社） ・映画『GO』 ・映画『バッチギ』 ・映画『三たびの海峡』他							
ゼミの進め方							
全員が事前にテキストを読みまたは映画を観て、ゼミでは内容をまとめて発表（発表者二人）してもらったあと、皆で討論を行う。毎回の発表者と司会者を事前に決め、ゼミの内容・進行等を学生が主導するものにしたい。＜比べる＞＜調べる＞という二つのことばをキーワードにした、学習者自身が自主的で積極的に参加する＜元気のいい＞ゼミにしたい。							
成績評価基準							
主に学期末の最終レポートで評価する。出席率、普段の授業態度、発表の内容を評価に加える ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション能力を積極的に評価に加えたい。							
ゼミ選択上のアドバイス							
3年のゼミは4年の卒論につながるものだから、自分の興味・関心のある分野を積極的に選んでほしい							
実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施	
×						○	
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310005	X-21-B-3-310005	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
国際研究ゼミナール3	佐藤 若菜			【1－3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1－3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
中国地域研究／日中関係／台湾・香港／民族衣装・衣服・物質文化／親子・家族・社会関係／結婚							
内容							
<p>本ゼミでは、自身の経験や身の回りで起きている出来事から研究テーマを抽出し、学術的な文章として表現することを目指す。まず、レポートや論文の書き方を指導する。論文の閲覧と要約を通して、論文とは何かについて理解することを促す。加えて、卒業論文の要となる資料収集についても指導を行う。特に、日本語だけでなく、英語ないし中国語の書籍・論文を読むことを必須とする。各自が設定したテーマに関して、日本とそれ以外の国における研究分析の違いについて考察する力を身につけることを目標とする。</p> <p>3年次後期からは、自身の卒業論文のテーマを決定し、そのテーマに関連した文献を読み、発表する。4年ゼミでは卒業論文の進捗状況を発表し、執筆した草稿を定期的に提出する。3年次・4年次のゼミにおいては、全ての学生が発表者に対する質問をし、ディスカッションを行う。</p>							
＜これまで指導した卒業論文のテーマ＞							
○中国・台湾・香港に関するテーマ							
・現代中国における若者の化粧行動：「90後」世代に着目して							
・社会的迷惑行為の日中比較：中国における迷惑行為基準への視角から							
・日中国際児の言語選択：母親による言語教育に着目して							
・日本と中国のテレビ・コマーシャルがうつしだす文化的差異：視聴者との共在状況に着目して							
・台湾映画のなかの日本：本省人監督が描く日本統治時代							
○母娘関係、家族、結婚に関するテーマ							
・中国の女子大学生と親との関係：進路の選択に着目して							
・現代日本における友人化した母娘関係：未婚期から既婚期への変化に着目して							
・日本における児童ソーシャルワーカーの役割と位置づけ：イギリスとの比較から							
・日本における人とペットの関係性：イヌに着目して							
・日本におけるペットの死をめぐる議論：ペットロスに着目して							
・子どもの学力と貧困：秋田県と新潟県に着目して							
・日本における現代女性の結婚観：晩婚化とその対策							
・同性婚をめぐる議論がうつしだす日本社会：1991-2019年の朝日新聞の記事938件を参照して							
○その他：民族衣装、人類学理論、民族誌、文化など							
・日本のフォークロア・ファッションにおける循環性							
・レヴィ＝ストロースの構造主義：神話研究に着目して							
・暴走族に付与されたストーリー：漫画・新聞・民族誌に着目して							
・被災地における音楽空間の創出：「癒し」の視点から							
・日本における映画離れの現状と解決策							
・韓国における英語教育：学歴競争社会と英語熱の関連性に着目して							
・アメリカにおける肥満問題と対策：日本との比較から							
・地産地消と食育：新潟県に着目して							
毎回の予習・復習として、計4時間相当の課題を出す。ゼミでは、各学生がその成果を発表し、皆で議論する。							
使用予定テキスト							
戸田山和久、2012、『新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK 出版社。							
その他、各学生の関心に沿って、適宜指示する。							
ゼミの進め方							
各学生がテキスト・論文・書籍を読んで作成したレジュメをもとにディスカッションを行う。							
成績評価基準							
レポート、発表内容、議論における発言の頻度と内容、出席状況等により総合的に評価する。欠席は原則的に認めない。							
ゼミ選択上のアドバイス							
学生の主体性を尊重し、中国地域研究や日中関係にかかわる幅広い分野にわたる関心に対応する。中国大陸（中国国家図書館、民族文化宮等）、台湾（国立台湾図書館、中央研究院等）、香港（香港中文大学等）での資料収集と現地調査（北京、上海、広州、貴州、雲南、台湾、香港など）の経験を踏まえ、多様なアプローチを紹介しながら卒業論文の指導を行う。また、民族衣装・衣服をはじめとした物質文化や、親子や家族を含む社会関係に関するテーマに対しても指導可能である。							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施	
×						○	
その他							
特になし							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード		ナンバリング		単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310005		X-21-B-3-310005		2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
						【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
授業科目		担当教員				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
						【1ー3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
						【1ー3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
						【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
国際研究ゼミナール3		堀川 祐里				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル									
労働と社会保障の視点から日本経済を考える									
内容									
<p>このゼミでは国際社会を見渡すための視点を確立させるべく、日本経済に対する持論を確立させてほしいと思います。その際に、日本経済を理解するための切り口となるのは「労働問題」と「社会保障」です。自助原則の貫かれる資本主義社会において、私たちはどうやって生きていくのか、人生において労働ができないとき、社会にはいかなる仕組みが必要なのか、考えていきましょう。皆さんが生活している社会の諸課題に対して「なぜ？」を問う姿勢を身につけてください。</p> <p>なお、最終的な到達目標である卒業論文の執筆に向けて、3年生から4年生までの2年間のゼミは以下のような計画で進めていきます。</p> <p>3年前期～11月：グループワークでインタビュー調査と報告会を行い、労働に関するイメージを掴む。 ※新学期開始前の4月中は、インタビュー調査はどのような人、企業等にインタビューを行いたいのか、各自考えてもらい課題を出します。</p> <p>3年後期：個別論文を用いて輪読を行う。アカデミックな文章である学術論文の書き方の作法を身につける。 卒業論文の作成に向けて、履修生各自の論文テーマを決定し、先行研究の渉猟、整理を行う。 適宜、作業状況の進捗報告を行う。</p> <p>4年前期：卒業論文の研究方法を決定し、調査、分析を行う。適宜、作業状況の進捗報告を行う。</p> <p>4年後期：夏休み明けを目処に卒業論文草稿を完成させる。その後、推敲作業を重ね、論文を完成させる。 論文完成後には、研究内容についてのプレゼンテーション練習を行う。</p> <p>なお、本科目は、2年生までに日本経済や社会福祉に関わる諸科目を履修し、労働と社会保障に関する基礎的な知識を身につけていることが望ましい科目です。</p> <p>また、毎回の予習・復習に、併せて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。</p>									
使用予定テキスト									
履修生の興味、関心から判断して選定します。内容としては「労働問題」、「社会保障」に関する論文から選ぶ予定であり、内容についてはもちろんですが、学術論文の書き方を勉強できるようなものを使用します。									
ゼミの進め方									
前期の初めから後期11月くらいまでの時間をかけて、新潟県内で働く人々へのインタビュー調査と、その報告会を行ってもらいます。それぞれのミッションは、教員主導ではなく、ゼミ生の力で運営してもらいます。正規の3年ゼミの時間以外にも、グループで自主的に作業を進めていく必要がありますので、その心づもりをしてください。 3年後期以降は各自の卒業論文執筆を見据えて個人の研究を進め、適宜、作業の進捗状況について報告を行ってもらいます。また、その時々日本経済の状況について調べ、考え、ディスカッションを行う時間も併せて設けていきたいと思います。									
成績評価基準									
履修者本人が担当する輪読の発表や、個人の研究の進捗報告についての、取り組みの姿勢や内容（50%） グループワークでの作業、授業内での発言や議論など、ゼミ全体への参加の姿勢や態度（50%） ※皆勤が原則ですので「出席」自体は評価の対象としなるとともに、どのような理由の欠席についても咎めません。ただし、授業内での発言や議論など、ゼミに積極的に参加することが必須です。また、ゼミの運営に影響しますので、無断欠席は厳禁です。社会に出ていく準備段階として、大人のマナーも身につけてほしいと思います。									
ゼミ選択上のアドバイス									
大学での学びの重要な点は、“自分からつかみ取ろう”とする姿勢です。特に、3年ゼミでは、大学を飛び出して実際に働く人々にインタビュー調査を行うことで、労働に関する課題について具体的なイメージを掴んでほしいと思います。そのために、以下のような学生の履修を歓迎します。 ①学外へインタビュー調査に出ることに挑戦する気持ちをもつ学生。 ②グループワークに積極的に協力し、自ら自分の役割を見つけて率先して課題に取り組める学生。 ③プロジェクトを最後まで責任をもって遂行できる学生。 多くの皆さんにとって大学は教育の「最後の砦」となります。そのため、社会に出ていく1歩手前まで来た皆さんには、3年生から4年生では特に学ぶことに全力で取り組み、人生の地図を描くとともに、生きていくための持久力をつけてほしいと思います。									
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性							アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施	
×								○	
その他									
大学3年生から4年生は、就職活動も本格化する時期であり、人生の大きな岐路に立つ時期でもあります。そのため、この2年間に共に過ごす履修生にはお互いを仲間として支え合う気持ちを持ってほしいと思います。大学生活に新たな課題が増えますが、履修生には、ゼミ生はお互いに切磋琢磨するライバルであり、同時に長い人生の上での大切な仲間であるという意識を持って、思いやりを発揮してほしいと考えます。									

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310005	X-21-B-3-310005	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
国際研究ゼミナール3	瀬戸 裕之			【1－3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1－3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
東南アジア地域研究入門							
内容							
【ゼミの目的】 本ゼミでは、「東南アジア地域研究」を学ぶことを主な目的としています。具体的には、植民地支配、第二次世界大戦、冷戦の展開、民主化、グローバル化の進展といった国際社会の変化を、東南アジアという地域での具体的な戦争や事件の展開を通じて考察することで、国際社会と東南アジア社会についてより多角的な視点から理解することを目指します。 東南アジアは、かつて欧米諸国の植民地支配を経験し、第二次世界大戦終結後の冷戦期には、インドシナ戦争、ベトナム戦争、カンボジア紛争など激しい戦争が行われ、多くの犠牲者が出た地域です。このような戦争は、現代の東南アジアにも影響を与えていると考えられます。また、この地域では、1960年代から、東南アジア諸国連合（ASEAN）をはじめとする地域間協力が進み、現在でも国境を越えた経済連結性の強化が行われているものの、各国間では経済発展に格差があり、民主化や人権保障の面でも、多くの課題を抱えています。 さらに、東南アジアは、日本との関りも長く、現在も日本企業が多く進出しています。その一方で、第二次世界大戦期には、東南アジアに対して戦争被害を与えた歴史があります。日本がこの地域とどのようにかかわっていくべきかを考えるためには、現代の東南アジアが経験した戦争や地域形成について学び、日本と東南アジアの関係について、お互いに対等な立場で考えることが重要です。 以上のような問題意識を共有しながら、学生たちと教員と一緒に学んでいきます。							
【ゼミの内容】 2020年度は、「東南アジア大陸部の戦争と地域社会への影響」について勉強します。東南アジア大陸部（ベトナム、タイ、ラオス、カンボジア、ミャンマー）は、1950年代から1980年代にかけて、ベトナム戦争、カンボジア紛争を経験し、ミャンマーでは現在も少数民族の紛争が継続しています。これらの戦争は、各国の国境を越えて行われ、さらに、戦後の社会変化にも影響を与えているのではないかと考えます。東南アジア大陸部の戦争に関する文献を読み、一緒に議論をしていきたいと思います。 毎回の予習・復習に、合わせて4時間程度の課題を提示し、その結果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
ゼミで使用するテキストは、次の通りです。 瀬戸裕之・河野泰之（編）. 2020.『東南アジア大陸部の戦争と地域住民の生存戦略-避難民・女性・少数民族・投降者からの視点-』明石書店、など。							
ゼミの進め方							
前半は、東南アジアの戦争に関する基礎知識を学びます。 後半は、学生がテキストを読み、各学生が担当する部分について発表し、学生と教員全員で知識を共有しながら、内容について議論します。							
成績評価基準							
ゼミへの参加と報告内容に基づいて成績を出します。具体的には、(1)ゼミへの出席と授業態度（25%）、(2)担当した発表内容と取り組みへの姿勢（50%）、(3)ゼミでのディスカッションへの参加（25%）、に基づいて、成績を出します。 【注意事項】ゼミ15回のうち1回分は、レポートで代替します。受講者は、必ず提出してください。							
ゼミ選択上のアドバイス							
東南アジアの政治、経済、社会、国際関係に関して学びます。少し内容が難しいかもしれませんが、教員も説明しますので、頑張って勉強してください。 東南アジアの近現代史、現代社会の国際関係に関する基礎知識が必要になりますので、ゼミに入る前に、「現代東南アジア論」の授業を履修していることをお勧めします。受講していない場合も、3年次前期に履修してください。							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施	
×						○	
その他							
学生の皆さんと一緒に勉強できる機会を楽しみにしています。							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習